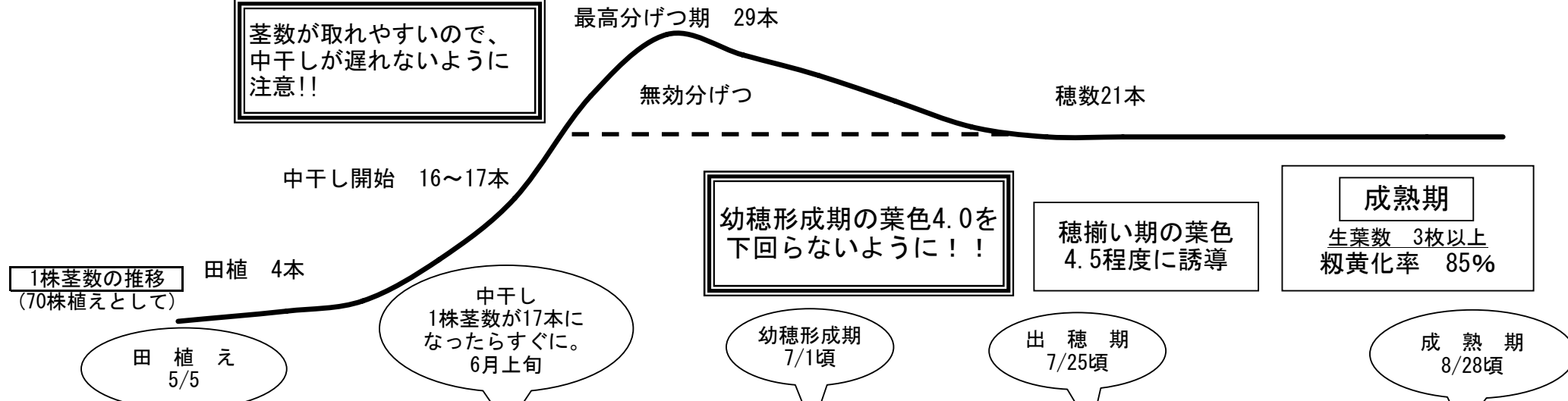


てんたかくの栽培基準

生育経過



月日	4月 20 25	5月 5 10 15 20 25	6月 5 10 15 20 25	7月 5 10 15 20 25	8月 5 10 15 20 25	9月 5 10 15
出穂後日数等				(25) (18) (0)		
草丈 (cm)		23	33	55	68	75
葉令		5.5	6.5	9	10.5	12.3
水管理	代かき	田植後の深水	活着後の浅水	中干し	間断灌溉 (ため水はしない)	湛水管理 (フェーン時の水不足には注意)

栽培管理のポイント

浸種は3月30日、播種は4月11日

- ① 乾籾120g/箱の薄まきで播種
- ② 灌水をやり過ぎない
- ③ 十分な換気を行う
- ④ 育苗後半の温度は日中20〜25℃とする

5月5日を中心に田植を実施

- 栽植密度 60〜70株 (中山間地は70株/坪)
- 植付け本数 3〜4本/株
- 植付け深さ 2〜3cm

溝掘り

※水の抜けにくい所は、溝の本数を増やす

過剰分けつを抑える中干し

(特に砂質浅耕土や中山間地では干し過ぎないように注意！一度に強く干すなどの極端な中干しをしない)

中間追肥の施用 (ケイ酸分の補給)

- 極端な色ざめが生じた場合はつなぎ肥で対応する
- 溝の手直し

穂肥の適正施用

- 1回目の穂肥 ↓ 幼穂長1mmの時
- 2回目の穂肥 ↓ 1回目の7日後
- 色がさめたら3回目の穂肥

基本防除の徹底

- 傾穂期
- 穂揃期
- 穂ばらみ期 (出穂直前)

刈取りの5〜7日前まで間断灌水 (排水不良田では、秋作業の地耐力を考慮する)

出穂20日間は、湛水管理

適期に刈る！

- 1・9mmの網目で選別する
- 籾水分や立毛胴割の発生に応じた乾燥調整を行う

地力増強のための土づくり

- ① 土壤改良資材を施用する
- ② 堆肥等の有機物を施用する
- ③ 秋耕しを行う

3回の適期防除を徹底して、
紋枯病・カメムシをよせつけない!!
(平成18年の品質低下要因ワースト1はカメムシによる斑点米!!)